



総合教育センターだより

Connected

センターマスコット センタ君



平成24年1月16日(月)
第34号(通算第117号)
京都府総合教育センター
TEL: 075-612-3266

「ことばの力」の育成 ～3学期に取り組みたい校内研修～

特集号

今年もよろしくお願
い
します。
今月号は、研修講座の
単位制履修制度につい
て、さらに知っていた
くための特集号です。



「ことばの力」は、あらゆる知的活動やコミュニケーション能力の基盤となります。学力向上や豊かな人間性をはぐむ上で、「ことばの力」の育成はきわめて重要です。

3学期は、研究・実践をまとめて次年度への展望を拓く時期。「ことばの力」の育成についても、各教科等や学級・学年などで進めてきた取組を振り返り、学校全体として今年度の成果と課題を明らかにするための校内研修を行ってみてはいかがでしょうか。

こんな「ことばの力」
を育ててきた！
これまでの取組を振
り返ってみよう。

- ★ 各教科等や学級・学年で取り組んできた研究授業、指導方法の工夫、朝学習での取組、ワークプリント等の工夫について交流
- ★ 取組の中で、育てることができた「ことばの力」を再確認 → 今年度の成果を検証
- ★ 成果のあった指導方法や教材等を共有化 → 学校の財産として、だれでも活用できるように整理



「ことばの力」って何
だろう？
実践を通した学び合
いについて考えてみよ
う。

- ★ 取組を通して納得したことや疑問に感じていること、もう一度確かめておきたいことを研究協議
- ★ 学年別、教科別、テーマ別等グループ編成を工夫して実施
- ★ 講師を招いての研修会や出前講座を実施
***センター出前講座をご活用ください。**



小学校入学期から小・中学校、高校までを見直し、あらゆる教育活動の中で「ことばの力」を育成する『ことばの力』育成プロジェクト

次の一歩！
目標と実践の方向を
探ってみよう。

- ★ “強み”を生かす発想で…今、どんな力を身に付けていて、これからどんな力が必要かを協議
- ★ 「各教科等 → 学年 → 学校全体」へと議論を積み上げて、共通理解を図る。
- ★ 焦点化を図る…短期にできること、中期、長期に目指すことなど、目標を整理してとらえる。
- ★ 実践のアイデアを出し合う。…自校の児童生徒の「ことばの力」を生かせば、こんなことができる！
- ★ 次年度、重点的に取り組むことを具体的に決める。

「ことばの力」育成プログラム



平成22年3月

京都府教育委員会

※「ことばの力」の育成に関わる学年ごと、教科ごと等の具体的な指導方法や授業、教材については『「ことばの力」育成プログラム』(右の写真)を参考にしてください。



お知らせ

JR、KTR 連休時の研修講座について

大雪等、悪天候に伴うJR、KTRの連休により講座の延期等、変更する場合があります。気象警報発令時についても原則として研修講座を実施しますが、大雪等の悪天候時における講座の実施情報等については総合教育センターのホームページ(ITEC)に掲載しますので、受講に際して事前に必ずご確認ください。携帯電話からでも確認できます。



単位制履修制度

必要に応じた講座選択によって、主体的、計画的に資質能力の向上を！

京都府総合教育センターでは、平成21年度から単位制履修制度を実施しています。この制度の特徴は、教職員それぞれがニーズに応じた講座を主体的に選択し受講することで、ライフステージにあわせた計画的な資質能力の向上が図れることです。

また、受講した各講座は履歴として記録に残されていきますので、年度ごとに確認しながら、より一層意欲的に研修に取り組めるようになっています。

教職員にとって、研修とは

教職は、たえまない研究と修養が求められる職業です。すなわち、教職員には、教育の専門家として自ら学び、生涯にわたって職能成長を図っていくことが必要とされています。そして、真の資質能力の向上は、自ら学び、自ら気づくことによって、はじめて得ることができます。

ライフステージとつきたい資質能力

教職員としての経験を重ねるにつれて、学校の中でも役割が変化してきます。初任者から若手の段階、中堅教員の段階、熟練教員・管理職の段階等、各ライフステージに応じて学校の中で担うべき役割が異なり、その役割に応じた資質能力を身につけることが必要となります。下の図は、ライフステージと講座との関係の一例です。

ライフステージ	求められる資質能力	研修の観点	集合研修（H23年度からの抜粋）			
			教科	領域等	コミュニケーション能力	チームマネジメント能力
初任者	基礎的な知識技能	実践の基礎・基本	初任者研修			
2～6年	専門的な知識技能		2年目研修			
7年～ 10年期	実践的指導力の向上	実践の推進	大学連携教科教育講座	道徳教育講座	コミュニケーション講座	「課題の分析・目標設定」演習講座
～12年	組織的運営への積極的参画		10年経験者研修			
13年～	学校経営に力をついての量	実践の発展 指導的力量的形成・向上 管理経営能力の向上	小学校「授業づくり発展」講座	人権教育講座	コーチング実践演習講座	危機管理講座

ここに示した講座は一例です。この例にかかわらず、どのライフステージにおいても自由に講座を選択できます。



単位とは

受講した研修の数を表す基準のことです。1講座を1単位としています。1講座を受講すると1単位履修となります。

どの時期に どれだけの講座を 受講するのか？

センターの研修講座には必修と、選択とがあります。必修はそれぞれの時期に必ず受講するものであり、合計34単位です。選択は、それぞれのライフステージの幅の中で、合計26単位の受講を標準として設定しています。必修と選択をあわせて、生涯で60単位が標準的なモデルとなります。ただし、60単位というのは、あくまで目安であり、義務ではありません。

研修講座の目的は、ご自身の資質能力の向上です。したがって必要に応じ、複数年にわたったり、あるいは連続して同じ講座を受講することもできます。この場合も、積算した単位が履歴に記録されます。

ライフステージ	必修講座	選択講座
初任者	20単位	
2年目	3+5単位 (+5はテーマ研修)	4単位
2～6年		
7年～12年		5単位
10年期	6単位	4単位
13年～		13単位
(生涯合計60単位)	計34単位	計26単位

※上記の表の内容は平成24年度より実施予定です。



小学校で3年目のわたしは、去年の3年生に続いて今年は4年生の担任。少し自信が持てるようになってきた。でも、もっと学級経営や教科指導の力を付けたいな。



アドバイス

小学校の教科教育の講座や、児童とのコミュニケーション能力を高める講座を受講してはどうでしょう。「授業に生かせるコーチング講座」や「コミュニケーション講座」など、子どもとつながる方法を身につける上で参考になるでしょう。

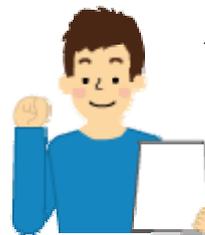


府立学校で15年目のわたしは、今年、学年部長。学年の保護者への対応の仕方や、学年の先生方の力を引き出す方法について学びたいな。



アドバイス

「実践の発展」をはかる講座を中心に受講してはどうでしょう。「コーチング実践演習講座」や「教育法規演習講座」などのコミュニケーション能力やチームマネジメント能力を高めるための講座から、保護者への対応や、職場のリーダーとしての役割のヒントが得られるでしょう。



中学校で9年目のわたしは、中3の担任も2回目。学年の生徒指導担当のほかに生徒会や文化祭の長を任せられた。学校全体を引っ張っていきけるかもこれからは付けたいな。



アドバイス

「実践の推進」を図る講座を中心に受講してはどうでしょう。領域の「生徒指導講座」や「特別活動講座」のほかに、チームマネジメント能力を高めるための「課題の分析・目標設定演習講座」などからも気づきが得られるでしょう。

右の表が研修履歴です。年度末に各学校で皆さんに渡されますので、ご確認ください。右の表の内容は、平成21年度に採用された方が9年経験された時点（H29年度末）での研修履歴の見本としての一例です。

※ センター講座のほかに、京都府教育委員会や国が実施主体となる研修についても、一定の条件を満たす場合は、単位として認定し（上限3単位）、研修履歴に記録していきます。



研修履歴一覧表

職員番号	1234567	所属	京都府立京都中学校	在職年数	9
職名	教諭	氏名	京都 太郎	総単位数	35

研修等履修状況

初任研修	履修	必修	10年期	履修	必修	選択	標準履修単位	3	4	標準履修単位	5		
	済	25					2～6年	必修	選択	他研修	7～12年	選択	他研修
							年	3	4		年	3	

取得単位詳細

2～6年	7～12年	10年期	13年～	研修領域	研修経	期間	備考	単位	合計
◎				教科	中学校・高等学校英語科教育講座Ⅰ	H23		1	2単位
◎					中学校・高等学校英語科教育講座Ⅱ	H23		1	
◎				領域等	総合的な学習の時間講座	H24		1	2単位
◎	◎				道徳教育講座	H27		1	
◎				コミュニケーション能力	コミュニケーション講座Ⅰ	H25		1	2単位
◎	◎				コーチング実践演習講座Ⅰ	H28		1	
				チームマネジメント能力	危機管理講座	H29		1	1単位
				法定研修外基本研修、指導者養成研修等					
4単位	3単位	0単位	0単位						7単位

センター研修以外の研修(他研修)取得単位詳細

主催	所管	研修名	期間	備考	単位	合計

センター研修以外の研修(記載のみ)

主催	所管	研修名	期間	備考

講師履歴

主催	講師名	期間	備考

センター研修での学びを校内にも ~取組の紹介~

センターで学んだ講座内容を職場で広く活用していただくため、「このようにして職場でみんなのものにしている」という事例について、センターだより11月号で募集しましたところ、京田辺市立培良中学校の取組をうかがうことができましたのでご紹介します。

Q どのような方法で、校外研修の報告をされていますか？
A 職員会議後や学期毎の研修会に行うよう、年間計画に位置づけています。報告者がレポートにまとめ、参加した際の資料を添えて職員に配布し、20分程度で報告しています。初任者研修に関しては、「教科指導」や「生徒指導」などのテーマを決めて焦点を絞っています。

Q 学校としてどのような考えで取り組まれるようになったのですか？
A 校内研修が教職員の資質能力向上の柱であり、学校を活性化させる研修の中核だと考えています。校外の研修に参加する教職員には、自分ひとりの研修ではなく学校の代表として学んでいるという意識をもってほしいし、同僚にも自分の得た「学び」を広めてほしいと考えています。

Q 教職員の反応は？
A 報告をする教師にとってはプレッシャーですが、研修に参加する意識が高まりました。校外への研修へは、分掌の主任が出席することが多いですが、主任としての自覚も高まっているように感じています。研修後に学んだことを整理したり人に伝えたりすることで、学んだことが本当に自分の力になったと感じています。報告を受ける同僚にとっても、「はっ」と気づくことや、「なるほど」と考えさせられることがありますし、配布された資料は役立つものが多いです。一人一人の「学び」がみんなのものになっていると感じています。まさに、学校の総合力を向上させる取組になっていると思っています。

教務主任の家村隆宏教諭にお話を伺いました。ご協力ありがとうございました。他にもいくつかの学校からも取組についてお知らせいただきました。今後も情報提供して参る予定です。

リニューアル

京育ナビ

総合教育センターのホームページ (ITEC) をご存知ですか。ITECは、府内教職員のために教育情報の提供・交流を目的としています。ITECのトップページには「京育ナビ」という項目があります。この「京育ナビ」を今回リニューアルしました。

「京育ナビ」では次のようなコンテンツがご利用いただけます。

- ・センターでこれまでに作成した研究冊子
- ・授業づくりに役立つコンテンツ
- ・各教育研究大会等で使われた指導案資料など。

ITECでは、京育ナビの他に、教育相談や研修講座の情報などさまざまな情報を多数、紹介しています。

ぜひ、ご活用ください。 <http://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/>

~教職員のメンタルヘルスひとロメモ~

ストレスに対処しやすい環境をつくるために大切なのはスムーズなコミュニケーションです。日頃から気楽に声をかけ、冗談を言い合えるような人間関係をつくりたいものです。「ストレスが原因で困っているのでは」と気づいたら、いたわりあう気持ちを持ちながら、さりげなく声をかけてみましょう。身近な人のぬくもりで支えあうことは、ストレスの影響を緩和する働きがあります。

ストレスへの対処については、総合教育センター教育相談部(申込先: mental@kyoto-be.ne.jp)や、「教職員健康相談24」でも相談できます。

The screenshot displays the homepage of the Kyoto BE Center (ITEC). At the top, there are navigation links for HOME, 研修講座, 京育ナビ, 教育相談, センター案内, and 検索. A banner at the top right reads "ITEC Information Technology Education Center". Below the navigation, there is a notice about the center's relocation and a "24時間受付" (24-hour reception) badge. The main content area is divided into several sections: "お知らせ・更新情報" (News/Updates) with a list of recent events; "京都市総合教育センターのご案内" (Center Information) with a list of services; "研修講座" (Workshop/Class) with a calendar and list of courses; "京育ナビ" (Kyoyu Navi) with a list of resources; and "お問い合わせ" (Contact Us) with contact details. There are also several small images and icons throughout the page.

